自分の意見を書こう
～ウガンダを通して世界に目を向けるために～

【実践者】

氏名	北平　浩美	**学校名**	栃木県立のざわ特別支援学校
担当教科等	外国語	**対象学年**	高等部　通常の学級　２年(３名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2024年9月(3時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域

外国語(論理・表現Ⅰ)

2. 単元名と単元目標

① **単元名**
Activity Station2　ライティングのコツ(VISTA　Logic and Expression Ⅰ、三省堂)

② **単元目標**
「日常的な話題」や「社会的な話題」について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができるようにする。

③ **関連する学習指導要領上の目標**
論理・表現Ⅰ
(3)書くこと
イ　日常的な話題や社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにお　いて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

3. 単元の評価基準

① **知識及び技能**
・[知識] まとまった文章を書くために必要となる「パラグラフの型」を理解している。
・[技能]「日常的な話題」や「社会的な話題」について、「パラグラフの型」を用いて、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝える技能を身に付けている。

② **思考力、判断力、表現力等**
・まとまった文章を書く上で、「日常的な話題」や「社会的な話題」について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えている。

③ **学びに向かう力、人間性等**
・まとまった文章を書く上で、「日常的な話題」や「社会的な話題」について、自分の考　えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えようとしている。

4. 単元設定の理由・単元の意義

① **単元設定の理由**

本単元は、「トピック・センテンス（topic sentence）」、「支持文（supporting sentence）」、「結論文（concluding sentence）」の3要素を適切に用いて、結束性および統一性のある論理的な文章を書くことができるようになることを目指すものである。題材となる社会的話題として「ウガンダの課題」を用いることで、生徒が第１学年時から現在まで学習を続けている SDGsに対する理解をさらに深めるとともに、国際社会の一員としての自分の在り方を考え、よりよい国際社会の実現を目指して主体的に世界と関わる姿勢を養いたいと考え、本単元を設定した。

② **単元の意義**

第1回では、教師の発表や体験的活動、日本とウガンダの比較を通して、生徒がウガンダに対する理解を深め、2国間のつながりを意識できるようにする。

第2回では、前時に気付いた課題がなぜ生じているのかという背景に目を向け、その上で有効な解決方法を理由も含めて考える活動を設定する。主体的・対話的な学習の実現のためにグループワークを取り入れる。

第3回では、これまでの学習を踏まえ、自分の考えを、論理の構成や展開を工夫して文章として書く活動を設定する。

③ **児童/生徒観**

本学級は、高等学校の学習指導要領に準じた教育課程で普通科の内容を学習している。英語に対する苦手意識を持ちながらも、教師の問い掛けに対して自発的に解答したり、ALT と意欲的にコミュニケーションをとったりするなど、積極的に学習に取り組む様子が見られる。また、英語の歌を聞いたり、海外旅行に行ってみたいという発言が聞かれたりと、外国やその文化に対して興味関心を持っている様子がうかがえる。書く活動においては、自分の考えを相手に伝わるように言語化することや順序立てて説明することに困難さがあるため、思考の過程を整理、視覚化する支援が必要である。

④ **指導観**

生徒の書くことに対する抵抗感や困難さの軽減を図るために、単元を通して「①ウガンダについて知る」、「②ある課題に対する自分の考えを深める」、「③考えを文章にする」というスモールステップで活動を設定する。グループワークを効果的に取り入れることで、対話しながら自分の考えを深めたり、多面的な視点を持って考えたりできるようにしたい。また、本単元ではウガンダをテーマに扱うが、ウガンダについて考えて終わりとするのではなく、「Lesson9　Save the Earth」（11 月学習予定）や「Lesson15 What’s　SDGs」（3月学習予定）や総合的な探究の時間「外国について」などの学習と結び付け、日本や外国に対してより興味関心をもち、国際社会の一員としての自分のあり方を考えるきっかけとできるようにする。

5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1	**●ウガンダってどんな国？** ねらい：ライティングの下準備として、ウガンダの文化や人々の生活、課題についての理解を深めることができる。	・教師が現地で学んできたこと、生徒が事前に考えた質問に対するウガンダの子どもたちの回答を発表する。 ・現地の楽器や教科書、お金などを体験したり見たりする。 ・日本とウガンダを比較し、共通点や相違点、良いところや課題を全員で話し合いながら、対比表にまとめる。	・PC ・パワーポイント ・現地の楽器、教科書、お金など ・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート
2 本時	**●課題解決のために必要なことを考えよう** ねらい：ウガンダの課題について、有効な解決方法やその解決方法を選ぶ理由を考え、文で書くことができる。	・本時で取り上げる課題を決め、なぜその課題が生じているのかを話し合う。 ・課題に対して有効だと思う解決方法をグループで話し合う。 ・グループでの話し合いを基に、自分が有効だと思う解決方法とその理由を書く。	・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート ・PC
3	**●自分の考えを書こう** ねらい：論理の構成や展開を工夫して、「ウガンダの課題とその解決策」をテーマとする文章を書くことができる。	・前時のまとめやパラグラフの型を基に、英作文を書く。 ・作成した英作文を生徒同士で発表し合い、それに対して感想や意見を伝え合う。 ・振り返りとして 7 月に実施したアンケートと同一の内容のアンケートに取り組み、学習前と今の自分の考えを比較する。	・ワークシート ・アンケート

6. 本時の展開

時間	2時間目		
本時のねらい	ウガンダの課題について、解決方法やその解決方法を選んだ理由を考えることができる。		
過程 （時間）	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （10 分）	●挨拶 ●前時の復習 　教師からの質問に答えたり、前時に作成した模造紙を見返したりして、前時の学習内容を思い出す。	・前時に使用した模造紙を提示することで、視覚的に復習できるようにする。	・前時に使用した模造紙
展開 （25 分）	●本時のねらいの確認 ●グループワークルール確認 ●グループワーク①（10分） なぜその課題が生じているのかを、グループで話し合い、因果関係図にまとめる。 ●グループワーク②（10分） グループワーク①で考えた課題の背景要因を踏まえ、どのような解決方法が有効	・人の意見を否定せず、受容的な態度で聞くように伝える。 ・意見を多く出すことに重点を置くため、グループワークは日本語で実施する。	・模造紙 ・マジックペン ・付箋紙

	かを話し合う。解決策を付箋に書いて、要因ごとにまとめる。		
まとめ （15 分）	●まとめ グループワークを踏まえ、課題に対して自分が最も良いと思う解決方法とその理由を英語で書く。 ●挨拶	・一度日本語で文を書いてから、英訳する。 ・英文を書く際には、辞書や PC などそれぞれの特性に応じた教材を用いる。	・ワークシート ・辞書 ・PC

7. 評価規準に基づく本時の評価方法

グループワークでの様子やその成果物、ワークシートの記述

8. 学校外との連携

本研修において、日本の児童生徒が作成した折り紙を教師が持参し、そのお礼としてゴンベ中高等学校の生徒からメッセージカードを受け取った。本単元の1時間目に、メッセージカードを日本の生徒に共有した。生徒は折り紙とメッセージカードのやり取りを通じ、ウガンダの子ども達との繋がりを感じることができた様子だった。また、メッセージは英語で書かれていたが、英語が苦手な生徒も含め、辞書を活用してメッセージを読もうと意欲的に活動していた。その後の学習や国際理解に対する意欲の向上に繋がったと考える。

9. 生徒の学びの軌跡

〈第1回　ウガンダってどんな国？〉

●実物に触れ、気が付いたことをまとめる活動

各々の気付きを用紙に書いて回覧した。共有しているうちに、誰かの気づきから発展させて新しい気付きを得たり、同意する気付きに対し「同じく！」と共感的な言葉を自ら書いたりする様子が見られた。生徒の記述（原文ママ、以下同様）は次の表のとおりである。

対象物	生徒の記述（※…教師による補足）
ボール	・思ったより重かった　・はだしでけったらぜったいにいたそう・バナナの皮でできている　・やわらかいところもあればかたいところもある　・植物のにおいがする
教科書・ワーク	・紙のざいしつが日本と違う　・交通標しきが日本と違う　・家のまわりにうしがいる　・家の外にライオン　・人相が大体同じ（※登場人物のバリエーションが少ない。）・数学のワークが 680 円くらい
お金	・ねだんによって絵がらが違う（ゴリラ、シカ、トリ、バナナ、サカナ）・色がすてき　・私が好きなお金が黄色のお札です。理由はゴリラがかわいいから。・すぐにちぎれそう　・1ウガンダシリングは 0.04 円
メッセージカード	・日本に行きたいなと書いてある　・日本語が書いてあった　・日本が好きと書いてある　・アフリカに来てと書いてあった　・日本に愛を伝えてた　・かみがうすい　・You が u だ（※略語）
ボードゲーム	・絵がいっぱい描かれてる　・絵が全部てづくり　・重かった　・コマの種類がいっぱいある（ライオン・ネコ・ウマなど）・ライオンがキング？
クラフト製品	・紙がくるくるしてる（※紙ビーズについて）・（※ビーズの）並びがキレイ　・文字が書いてある　・よくできている　・日本で販売したらどれくらい？
楽器	・音が変だった（※調律があっていない）・こつをつかむと音がなった　・ならすのが難しい　・日本にも同じものがありそう
新聞	・ナンプレがあった　・車の広告があった　・メダルとった（※オリンピックの記事について）・ぼうしかぶってるイケメン大統領（※衣服や年齢が日本の総理大臣と異なる）

●日本とウガンダを比較する活動

日本とウガンダの共通点と相違点を考え、紙にまとめた。バリアフリーや特別支援学校の種類など、特別支援学校の生徒にとって身近なものに対する意見が目立った。また、違いを挙げる際に「これはいいよね」「おもしろい」などの発言があり、違いを肯定的に捉えている姿が印象的だった。生徒の記述は以下のとおりである。　（※…教師による補足）

共通点	違い
・新聞がある　・日本車　・制服がある　・給食がある　・日本の文化（※ナイル架橋におけるゴミ拾いの話を受けて）　・車いす　・バリアフリー（※あしながウガンダにはスロープがある）　・大縄　・国のリーダーがいる	・野菜じゃなくて草（※ドードー（葉野菜）が出てくる頻度が多い）　・時差がある　・おりの外にさるがいる　・交通ルールが全く日本とちがう　・ごはんを手で食べる　・給食のメニューが毎日同じ　・給食に出る飲み物が違う　・小学７年生がある　・しがい線が強い→だから肌の色がちがう？目（※の色）もそうなのかも　・支援学校の種類が少ない（※ウガンダの特別支援学校は盲学校のみ）

●ウガンダのよいところと課題を考える活動

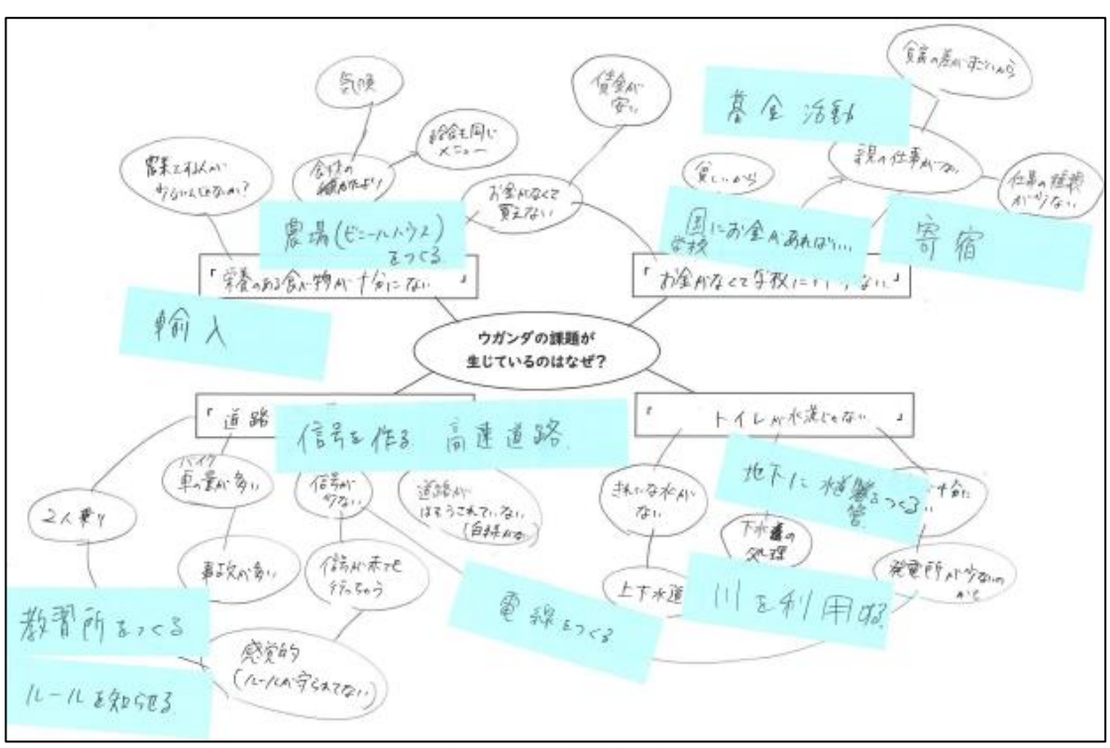
ウガンダのよいところと課題を考え、紙にまとめた。生徒の記述は以下のとおりである。

よいところ（※…教師による補足）	課題
・普通の学校にスロープがある　・みんな元気　・動物が近くで見れる　・良いところをマネする（※ナイル架橋のゴミ拾いの話を受けて）　・皆接し方が優しい　・難民のうけいれがいい	・道路　・動物　・お金がなくて授業できない　・電気　・服がかえない　・机が人数分ない　・水　・食事　・トイレ　・仕事がない

〈第2回　課題解決のために必要なことを考えよう〉

●因果関係図

前時に挙がった課題のうち、本時に考えたい課題を4つ挙げた（図1の「　」）。それらの課題が生じている理由、その理由が生じている理由…というように連続的に理由を考え、課題が生じている根本的な理由を探ろうと試みた（図1の楕円）。その後、それらの理由を踏まえ、課題の解決策を考えた（図1の水色の付箋）。



（図1：因果関係図）

〈第3回　自分の考えを書こう〉

●英作文

第2回の因果関係図を基に、ウガンダの課題とその解決策に関する英作文を作成した。文全体の構成を意識しながら自分の考えを表現することに焦点を当て、必要に応じて電子辞書や Google 翻訳、DeepL などを活用した。生徒の記述は以下のとおりである。

（生徒 A）

I am writing about providing nutritious food for the people of Uganda. We should build greenhouses.

I have two reasons. First, we can reduce lifestyle related diseases because we can eat many vegetables. Second, it will reduce food imbalance.

For these reasons, it is good to build greenhouses.

（生徒 B）

I am writing about the road traffic jams in Uganda. Putting a traffic light on the road is a good solution.

There are two reasons. First, everyone obeys the traffic rules. Second, if you put traffic lights, the traffic jam will be reduced.

For these reasons, it would be nice to put a traffic light on the road.

（生徒 C）

I am writing about Ugandan children who cannot go to school because they have no money. I think fundraising is a good solution.

I have two reasons. First, other countries have more money. Second, fundraising is easy to do.

For these reasons, I think your donation will save the children in Uganda.

〈学習前と学習後の生徒の変化〉

●事前・事後アンケートの比較

学習前と学習後に同じ内容のアンケートをとった。結果を比較した結果、次の3点に変化が見られた。

①アフリカ（ウガンダ）に対するイメージ

「アフリカ、ウガンダはどんなイメージですか？」という質問について、学習前と学習後で以下のような変化が見られた。学習前は固定観念や先入観によるイメージが強いが、学習後は授業で見た写真や動画、教師の話を基に、自分で見聞きしたものを言語化することができた。また、ウガンダだけでなく、アフリカの他の国はどうなのかという疑問を口にした生徒もいた。

学習前	学習後（※…教師による補足）
・暑い　・動物がたくさんいる　・怖い　・貧困	・森がたくさんある　・車が一緒（※日本車）　・むほうちたい（※交通ルールが守られていない）　・優しい　・米食べてる

②自分の身の回り対する気付き

「日本が世界に誇れることは何だと思いますか？（自由記述）」という質問について、学習前は生徒2名が「わからない」と答えていたが、学習後には「平和、戦争をことわる」「ふじさん」などの具体的な回答が得られた。また、「あなたが幸せを感じる時はどんな時ですか？（自由記述）」という質問については、学習前は「ない」と回答していた生徒が、学習後は「ご飯を食べてる時」と回答した。学習を通して、ウガンダや世界に関する理解を深めるだけでなく、日本や自分自身について改めて見直すことができたと考える。

③国際理解に対する意識

「国際理解とは何をすることだと思いますか？」「国際理解は何のために必要だと思いますか？（いずれも選択式・「その他」の選択肢のみ記述式）」という質問に対し、いずれの生徒も学習前よりも学習後の方がより多くの選択肢を選択していた。学習を通して、国際理解やその意義に対する理解が深まったと考えられる。また、「世界のためにあなたができることは何だと思いますか？」という質問について、学習前は「ない」と答えていた生徒が、学習後には「地球温暖化を進ませないこと」と答えたり、学習前は「ボランティア」と答えた生徒が学習後には「募金」と答えたりと、世界に対して自分ができることについて、それぞれがより具体的に考えを持つことができたと思われる。

10. 自己評価

① **成果が出た点**

「6. 学校外との連携」に記載したように、英語に対して嫌悪感を持つ生徒が英語に親しむきっかけとなった。ある生徒が好きな英語の曲を休み時間にみんなで聴きあったり、ある生徒は授業で体験した楽器（カリンバ）を個人的に購入して演奏したりしており、学級全体として英語や外国の文化に親しみやすい雰囲気ができた。

また、「7. 生徒の学びの軌跡」における〈学習前と学習後の生徒の変化〉で記載したように、自分自身や外国および日本に対する理解、自分と世界との関わりに対する意識において前向きな変化がもたらされた。

② **苦労した点**

外国に対する興味関心、生活経験、学習の習熟度に個人差があるため、各個人の実態に応じながら授業を進める必要があった。ウガンダを通して世界に対して興味関心を持てるようにすることに焦点を当て、生徒それぞれの興味関心に関わる内容や体験的な学習を取り入れるなどの工夫をした。また、因果関係の結びつきを正確に捉えることができるよう、かみ砕いて説明したり、身の回りの事象を例に説明したりすることを心掛けた。

③ **改善点**

ウガンダの課題と解決策について考える活動を行ったが、課題同士の関わりや多くの課題に通ずる根本的な原因（貧困など）に気が付くことまで展開することが難しかった。事前研修として参加した国際理解教育実践セミナーで行った「貧困の輪」などの活動を行い、課題同士の連鎖的な関わりに気付く機会を設けられると良かった。

④ **自由記述**

本単元の学習を通して、生徒が外国に興味をもち、国際社会の一員としての自分の在り方について考える機会のひとつになった。今回は高等部通常の学級での授業について取り上げたが、本研修で得られたことを他学部や他課程にも共有し、より多くの児童生徒が世界の国々と自分の繋がりを感じる機会を設けたい。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校職員を対象に研修報告会を実施した。現地で学んだ内容について、事前研修として参加した国際理解教育実践セミナーで学んだ手法を取り入れて報告した。また、現地で購入した教材を貸し出し、他学部・他課程の学習でも活用できるようにした。

12. 自由記述

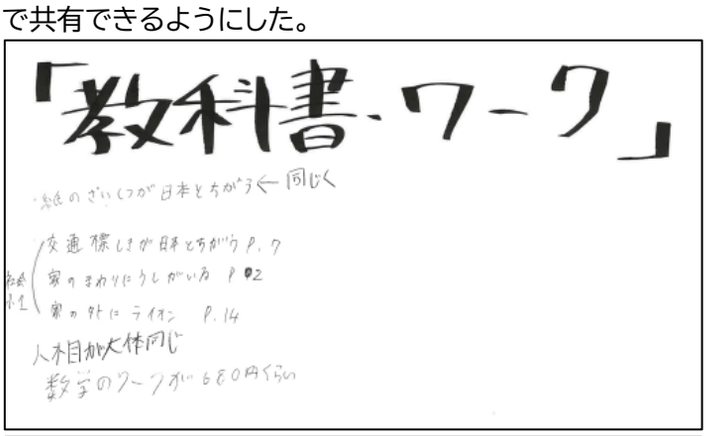
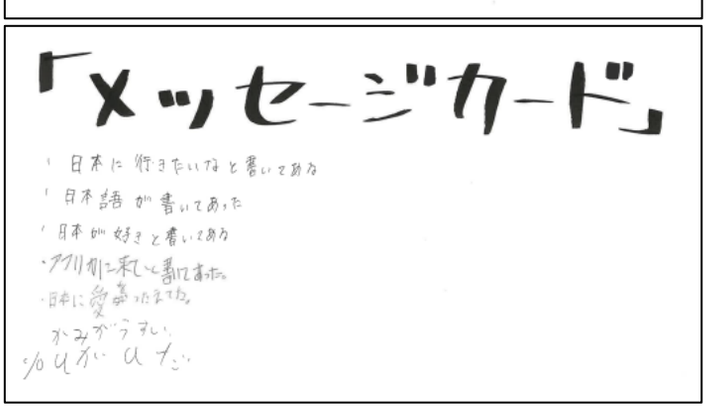
教師が実際に見聞きしたものを題材に授業を行うことで、生徒がウガンダや世界についてより自分事として捉えることができたと感じた。この授業で完結するのではなく、生徒が自分と世界の繋がりを感じ、国際社会の一員として積極的に世界と関わることを目指して今後も継続して指導にあたりたい。

13. 参考資料

資料名	著者名等	出版元、URL 等
よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集　コミュニケーション編-他者に関わる力を育もう-	久世治晴、佐藤かおり、田口裕晃、鉄井宣人、二宮由布子、吉岡嗣晃	特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

14. 本時で使用した資料

【第1回の授業で使用したパワーポイント資料】
身近な内容に関するクイズから始めて生徒の興味関心を高めつつ、徐々にウガンダの課題の本質に気が付くことができるように工夫した。

左上：ウガンダの日本料理店で食べた寿司
右上：トイレ
左下：黒板消しの代わりに使用している紙くずと靴下

【第1回　実物に触れ、気が付いたことをまとめる活動】
気が付いたことをまとめる紙を1枚にして生徒同士で回し合ったことで、各々が気付いたことを全体で共有できるようにした。